

教えてはちくん!木づかい通信 Vol.6



大館市観光キャラクター

「はちくん」

※チェンソーマンVer.

テーマ

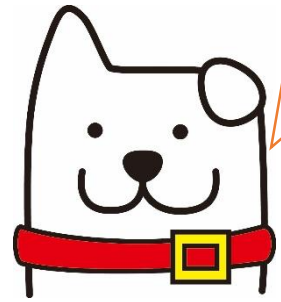
集成材と CLT(直交集成板)の違い

～意外と同列に捉えられる集成材とCLT～

令和3年9月
産業部林政課

テーマ「集成材とCLT（直交集成板）の違い」

教えてはちくん！



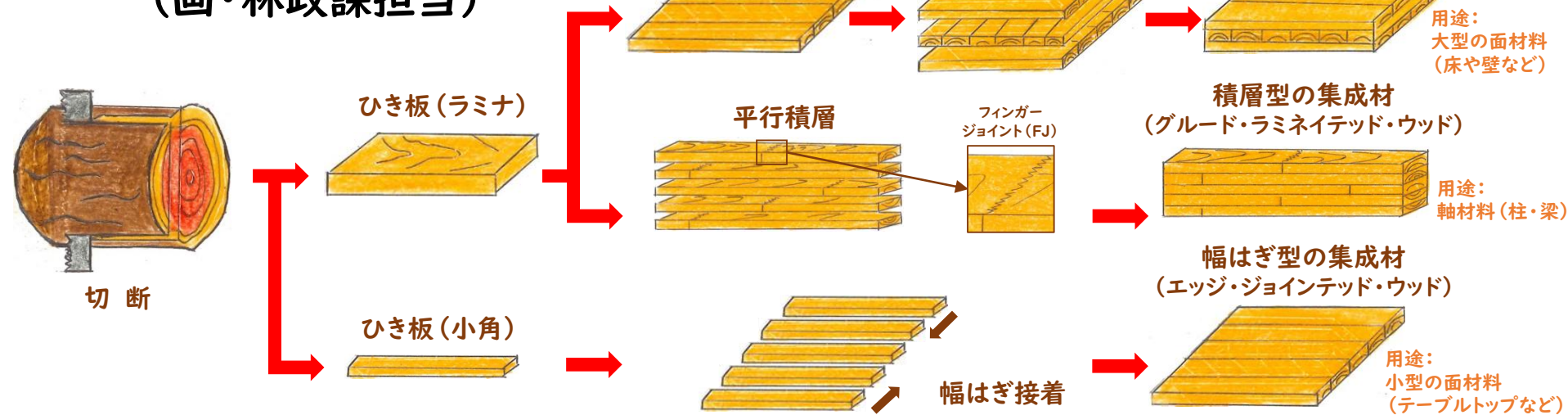
原料の構成の違いとして、「集成材」は、ひき板（長さ方向にフィンガージョイントされたものも含む）や小角材等をほぼ平行にして、厚さ、幅及び長さ方向に接着したもの、つまり、ひき板を一方向に並べて接着したものが集成材です。集成材には積層型と幅はぎ型の2種類があります。

これに対して「CLT（直交集成板：クロス・ラミネイテッド・ティンバー）」はひき板を幅方向に並べたものを、直交させて奇数層積層接着したものです。幅はぎ型の集成材とは違って、CLTでは幅はぎの面は必ずしも接着する必要がないことも特徴の一つです。

「目からウロコの木のはなし、P190～193」

図で見てみよう

イメージ図：集成材とCLTの違い （画・林政課担当）



⇒木材関連業界では誰でも知っているCLTですが、歴史が浅い材料であるため、こんなところが誤解されている、あるいは間違った表現をしてしまっていることも。典型的な事例は「直交集成「板」」を「直交集成「材」」にしたり、「直「交」集成板」を「直「行」集成板」にしたりとか。ちゃんと覚えないと〇コちゃんに吐られるかもしれません。この際にぜひ覚えましょう。

テーマ「集成材とCLT（直交集成板）の違い」 ～資料編～



CLT（左、提供：一般社団法人日本CLT協会）と集成材（右、提供：ティンバラム株）のサンプル